様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：３２６３６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０２００３

研究課題名（和文）「新しい女性」とアジアの近代――情動にみる思想・価値観の形成過程の比較研究

研究課題名（英文）The New Women Phenomenon and Asia in the Modern Age

研究代表者
山口　みどり（YAMAGUCHI, MIDORI）

大東文化大学・社会学部・教授

研究者番号：００３８４６９４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、イギリス・アメリカで19世紀末に起こった「新しい女性」現象の影響を受け、20世紀初頭のアジア諸地域――とくに日本、中国、韓国、インドネシア、エジプト、トルコ――で「近代的で自立した存在」としての「新しい女性」像が出現し変容を遂げた状況を、「憧れ」という感情に注目しつつ、比較研究することを目的とした。海外から研究者3名を招聘しての一連のシンポジウムや東京大学大学院での連続講義を行ったほか、成果に基づく共著書を執筆中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究においては、「新しい女性」像が形成された過程で見られた「憧れ」という情動に着目することで、「憧れ」の醸成や伝播、摩擦や葛藤のさまや、国境や地域を越えた思想・価値観のグローバルな影響関係を分析した。これにより、思想や価値観の形成過程を情動の面から捉えなおすとともに、アジアにおける近代化のジェンダー的な側面を考察することができた。また、海外から研究者を招聘して一連のシンポジウム「近代化と家族・女性」を開催することで、広く西洋史研究者や他のアジア地域の研究者との議論の機会を設け、研究を深めるとともに、ここで培った研究者ネットワークを、さらなる研究の発展につなげる基盤とすることができた。

研究成果の概要（英文）：This project aimed to comparatively analyze the ways in which the ‘new women’ phenomena-- one that originated in the Anglo-American context in late nineteenth century-- affected Asia in the early twentieth century, shaping the images of independent and modernized ‘new women’. To do this the study took up Japan, China, Korea, Indonesia, Egypt and Turkey, in particular. In conducting the comparative analyses, the focus was on the emotion of ‘akogare’, or ‘a sense of longing, an experience or dreaming or the desire to be charmed and to be charming’*. In the course of the three years the project was funded, we gave a series of lectures on ‘New Women and Asia’ at the graduate school of Tokyo University as well as organizing a series of symposia inviting three lecturers from overseas. We have also been working on a joint book based on the findings of this project.
*English definition by Pamela Cox in our joint work in progress.

研究分野：イギリス史、ジェンダー史、女性史

キーワード：情動史　新しい女性　ジェンダー　アジア　比較史　フェミニズム　イギリス　近代

１．研究開始当初の背景

「新しい女性/ New Woman」とは、女性の社会的進出が始まった 19 世紀末の英米で使われるようになった言葉で、知的、経済的、政治的、性的に男性から自立した女性たちを指す。「新しい女性」とは、人びとの憧憬の的となった反面、不安感を煽る存在でもあった。アジア各地ではさらに西洋化（≒近代化）のアイコンとしての意味も併せ持ち、多様な形で発展していった。研究開始当時、各地域の動きについてはそれぞれに研究蓄積があった。例えば［アブー・ルゴド編『「女性をつくりかえる」という思想』 明石書店, 2009］は、19 世紀前半から 20 世紀後半までの西アジアに見られた「女性をつくりかえる」取り組みを扱ったものであり、［伊藤るり他編『モダンガールと植民地的近代』岩波書店, 2010］は、東アジア地域の「新しい女性」の連関を 20 世紀はじめの日本を中心に描いたものであった。それらには、近代や植民地主義、ジェンダーをめぐる共通した論点が見出されたが、それぞれの地域での動きや、それらが逆に西洋社会に及ぼした影響を含め、全体を繋ごうとする試みは行われていなかった。研究代表者は 19 世紀イギリスにおける宗教とジェンダーについて研究するなかで、西洋的価値観を伝える女性宣教師を使った英国国教会の宣教戦略に関心を持った。そこから、西洋からの刺激とアジア諸国・諸地域の反応に着目し、西洋的価値観と、民族主義や伝統的価値観・ジェンダー観とのせめぎあいを、文化史的に考察していくことを計画した。

また先行研究では、女性に関わる言説がもつ政治性というマクロな視点を中心に議論が行われたが、そうした女性像の構築に関わった人びとの「情動」といったミクロな視点は、十分に論じられていない。Ute Frevert が指摘するように、怒り、悲しみなど情動は、人びとの行動の原動力となり、社会、政治、経済の発展に影響を与えてきた（*Emotion in History*, Budapest/NY, 2011; J. Plamper, *The History of Emotions*, Oxford, 2012）。それゆえ、本研究では新しい女性を巡る情動、とくに「憧れ」をひとつの参照軸にすることを計画した。

２．研究の目的

本研究の目的は、①「新しい女性」現象に触発され、20 世紀初頭のアジア諸地域で、「近代的で自立した存在」としての「新しい女性」像が出現し変容を遂げた状況を、相互の影響に目配りをしつつ比較することで、歴史的文脈と共に明らかにすること。②「新しい女性」像が形成された過程で見られた「憧れ」という情動に着目し、「憧れ」の醸成や伝播、摩擦や葛藤のさまや、国境や地域を越えた思想・価値観のグローバルな影響関係を明らかにすることである。これにより、思想や価値観の形成過程を情動の面から捉えなおすとともに、アジアにおける近代化のジェンダー的な側面を考察しようと試みた。

３．研究の方法

本研究は研究協力者 1 名を含む 7 名で分担し、各年度数回の研究会を開催して以下の基礎研究とテーマ研究を行った。

１）基礎研究 「新しい女性」論の形成と展開：各担当地域の「新しい女性」像を概観して比較の素地をつくり出すために①各担当地域の政治的・社会的状況、教育・メディアの状況と変化、思想や価値の具体的な変化のさまを、年表の作成を通じて比較した。②東京大学全学横断型プログラム『日本・アジア学』（［ASNET］主催）において連続講義「アジアの近代と女性」を行い、イギリスおよびアジア諸国において、「新しい女性」像を、誰が、なぜ、どのように描いてきたのかをそれぞれの研究テーマと絡めて概観し、メンバー間で

各地域の問題を共有するとともに情報発信を行った。
２）テーマ研究 「新しい女性」像の広がり：思想や価値観の形成にとりわけ大きな役割を果たしたのが人とメディアである。そこで、テーマ研究では①「人」、「メディア」、「人＋メディア」という３区分で個別研究を行った。②海外から研究者を招聘してシンポジウム「近代化と家族・女性」を開催し、広く西洋史研究者や他のアジア地域の研究者との議論の機会を設け、研究を深めた。
３）総括：最終的には、１）を土台とし、２）②を通して研究を深め、「新しい女性」像の比較から見えてくるアジアの近代とその西洋への影響を扱う共著の執筆に繋げている。

４．研究成果
【人＋メディア】山口は 19 世紀後半～20 世紀初頭の英国国教会系列の宣教師団体（SPG）の「婦人協会」および女性宣教師をめぐる出版物を研究対象とした。「婦人協会」は国教会お墨付きの「新しい女性」像を提示し、国内で慈善活動に従事していた女性たちに、その「延長」として海外宣教師となる道を示した。山口は、こうして女性宣教師の拡大が国内の「余った女性」問題と接合されたと分析した。後藤は、19 世紀末から 20 世紀初頭のエジプトにおける「新しい女性」論に着目した。当時のエジプトで「新しい女性」論を提示し、展開していったのは、西洋式の新教育制度の中で世俗的・宗教的知識を獲得した男女の知識人であった。彼らの主張の根幹には、帝国主義や民族主義がせめぎ合う時期に問題化した「伝統」や「宗教」をめぐる葛藤と、それを再創造したいという思いや、すべきであるという確信があったことを後藤は指摘した。【メディア】野中は、20 世紀初頭、オランダの植民地下におかれた蘭領東インドで発行された女性雑誌『東インドの女性』と『独立した女性』を取り上げ、出版や編集に関わった人々や掲載された記事・写真を分析した。これにより、当時の植民地統治下の言論空間で、女性たち自身の／女性たちを取り巻く様々な主体の「憧れ」が交差する様を描き出した。李は、1910 年代、在日本朝鮮人女子留学生が組織した「東京女子留学生親睦会」とその機関紙『女子界』を取り上げ、植民地下の「新しい女性」像をめぐる議論を分析した。植民地下における「新しい女性」像は、テクストにおける「言説」と実際の「実践」における落差を見せながら、重層的に形成されていった。【人】高は、満洲の文壇で活躍していた作家・三宅豊子の人生に焦点を当て、憧れや打算のもとで満洲に渡り、家庭の事情で満洲生活の継続を決断した一日本人女性の植民地経験を描出した。そこからは、在満日本人女性の多様な生き方の可能性とその限界、それらを左右する時代性や国家との関係が浮かび上ってくる。青木は大正末期から昭和初期の作家の佐々木ふさと、評論家の望月百合子を事例とした。掲載雑誌を通じて当時のプロレタリアを含めた女性達に西洋への憧れを移入したと推察できる。また、それぞれ佐佐木茂索、石川三四郎との関係性にも着目することで、当時の女性の生き方と自立について考察した。宇野はトルコ共和国初代大統領ケマル・アタテュルクの妻と養女に注目し、彼女たちに注がれた「憧れ」が政治権力への恭順と個人としての自己実現という二つの要素で成り立っていたことや、時代の変化に伴う「憧れ」の変質について考察した。

【招聘研究者によるシンポジウム】
　海外から研究者を招聘してのシンポジウムでは、以下の成果があった。エセックス大学のパメラ・コックス教授は、通常「新しい女性」として取り上げられる中流女性ではなく、労働者／下層中流階級に属する女性店員を取り上げた。20 世紀転換期には、女性店員もまた社会の脅威と考えられていたが、それは彼女たちが偽りの夢を売る偽りの労働者である

という認識から生まれていた。コックス氏が示した女性店員の労働の「美的労働」という側面、そしてそれが消費社会の発展に果たした役割についての議論から、本研究は重要な気付きを得た。香港大学准教授中野嘉子氏の講演は、JAL の太平洋線就航時における企業戦略としての着物を着たスチュワーデスの起用についてであった。議論では、「従順」な日本人女性に対する当時の欧米人のオリエンタリズム的「憧れ」をブランディングに利用した経緯や、「空飛ぶ女性」の仕事が、女性の「ピンクカラー」労働として確立していく過程に関心が集まった。ケンブリッジ大学のルーシー・デラップ氏による報告では、19～20世紀に英米人が撮影したビルマ女性の写真イメージが持った意味が考察され、当時の英米において、ビルマ女性がどのように「新しい女性」のイメージとして意味づけられ、消費されたのかが検討された。これを受け、「新しい女性」の特性としてみられたものにおける主体性、英植民地の地域間の違い等について議論された。

こうした議論を通し、本研究は「近代と憧れ」という、より大きな枠組みにも発展する可能性を持つという認識を得た。また、本科研ではこれらの活動を通して、東洋史、西洋史の枠を超えこのテーマに関心を持つ国際的な研究者ネットワークを構築することができた。現在、科研メンバーのテーマ研究と招聘研究者の論考とを併せて論文集としてまとめている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① 高 媛「満鉄の観光映画――『内鮮満周遊の旅　満洲篇』（1937 年）を中心に」『旅の文化研究所研究報告』第 28 号、2018 年 12 月：43-65

② 青木淳子「プロレタリア文学にみる新しい女性像―ファッションを視点として」『語学教育論叢』第 35 号、2018 年 3 月 : 59-77

③ 山口みどり「戦争・ジェンダー・市民権―第一次世界大戦と新しいイギリス女性像―」『大東文化大学紀要〈人文科学編〉』55 号、2017 年 3 月: 107-124

④ 青木淳子「『女人芸術』における望月百合子－アナーキストとモダンガール」『水門―言葉と歴史』27 号、2016 年 10 月 : 85-98

〔学会発表〕（計 17 件）

① 後藤絵美「エジプト女性運動の「長い 20 世紀」――連帯までの道のり」国際シンポジウム「アジアの女性」成均館大学（ソウル)、2019 年 1 月

② 山口みどり「参政権意識の芽ばえ―『保守的』な女性たちの目覚め」ヴィクトリア朝文化研究学会 ラウンドテーブル「女性のプラットフォームを求めて――女性参政権獲得の歩み」日本女子大学、 2018 年 11 月

③ 青木淳子「佐々木ふさの文学におけるモダンガール―憧れと情動」大東文化大学外国語研究科主催「第 10 回東西文化の融合国際シンポジウム」大東文化会館、2018 年 10 月

④ 李美淑「画家・富山妙子と『帰らぬ女たち』」ワークショップ「森崎和江の越境する連帯の思想－「からゆきさん」の近代と現代」北海道大学、2018 年 8 月

⑤ 野中葉「ムスリマのヴェールと服装をめぐる 30 年と最近の話題（インドネシア)」　シンポジウム「記憶と記録からみる女性たちの 30 年」東京大学、2018 年 7 月

⑥ 宇野陽子「トルコの女性参政権―運動と国策の間で―」イギリス女性史研究会「シンポジウム　女性と市民権――国策を越えて」京都大学、2018 年 6 月

⑦ 李美淑「トランスナショナルな公共圏の可能性―画家・富山妙子の越境する作品を事例に」日本マス・コミュニケーション学会、学習院大学、2018 年 6 月

⑧ Uno, Yoko, "'Religion is a Wall' to protect against what? Rıza Nur's Thoughts on Turkish Nationalism and Religious Authority in the Early Republican Period", International Conference "Rethinking Nationalism, Sectarianism and Ethno-Religious Mobilisation in the Middle East", University of Oxford, January 2018.

⑨ 高 媛「満鉄の観光映画――『内鮮満周遊の旅・満洲篇』(1937 年) を中心に」日本植民地研究会、2017 年 7 月

⑩ Lee, Misook, "Transnational Solidarity Activism and the 'Rooted Cosmopolitans' in Postwar Japan: the case of the Japan-Korea solidarity movement of the 1970s and 80s", AAS-in-Asia (Association for Asian Studies) , Seoul, June 2017.

⑪ Lee, Misook, "Transnational Communicative Networks in South Korea's Democratization Movement in the 1970s and 80s", Research Forum, Institute of East Asian Studies, University of Duisburg-Essen, May 2017.

⑫ 後藤絵美「草創期の女性雑誌を探して――『女学新誌』と『若い娘』」「「砂漠の探究者」を探して――女性たちと 100 年」研究会、東京大学、 2017 年 4 月

⑬ 李美淑「1970～80 年代における「日韓連帯運動」と富山妙子―その越境性をめぐって」国際学術シンポジウム「越境する画家、越境する作品世界―トランスナショナル連帯における富山妙子の画業について」東京大学、 2017 年 3 月

⑭ 青木淳子「雑誌『皇族画報』にみる近代皇族のファッション－おとな服・こども服」一宮市博物館講演会「尾張平野を語る 21　ウールが支えた様相文化」第一回講演、一宮市博物館、2017 年 2 月

⑮ 山口みどり「歌う聖職者たち、サープリスを着た女性たち、教会という劇場」歴史と人間研究会、一橋大学、2016 年 11 月

⑯ 高媛 「境界をまたぐ身体―戦前満洲の学生日記にみる中国人青年の学校生活と都市経験」学際シンポジウム「近代日本の日記文化と自己表象」明治学院大学、2016 年 9 月

⑰ En, Ko, "The School Life and City Experience in Colonial Manchuria: An Analysis of a Chinese Youth's Diary of 1936", AAS-in-ASIA Conferences, Doshisha University, Kyoto, June 2016.

〔図書〕(計 7 件)

① レオノーア・ダヴィドフ、キャサリン・ホール著、山口みどり、梅垣千尋、長谷川貴彦訳『家族の命運』名古屋大学出版会、2019 年刊行予定

② 山口昭彦『クルド人を知るための 55 章』明石書店、2019 年、pp. 77-81

③ 宇野陽子「セーヴル条約からローザンヌ条約へ―クルディスタンの分断と国際関係―」

④ 田中祐介、高媛、他『日記文化から近代日本を問う』笠間書院、2018 年、pp. 397-426

⑤ Susanne Foellmer, Margreth Lünenborg, Christoph Raetzsch eds. (Misook Lee et.al.), *Media Practices, Social Movements, and Performativity*, Routledge, 2018, pp. 168-85.

⑥ 李美淑『「日韓連帯運動」の時代』東京大学出版会、2018 年

⑦ 千葉千代吉、高媛 『湯崗子温泉株式会社二十年史』(社史で見る日本経済史, 第 85 巻) ゆまに書房、2016 年、3-19 頁

〔その他〕

①宇野陽子「書籍紹介 Altug Yalcintas (ed.) Creativity and Humour in Occupy Movements:

Intellectual Disobedience in Turkey and Beyond, London: Palgrave Macmillan, 2015」『イスラーム地域研究ジャーナル』Vol. 11、2019 年 3 月、p. 153

②山口みどり「新・新しい女の子」たちの憧れを紡ぐ雑誌　『女子の世界　The Girl's Realm Annual 1899-1903』アティーナ・プレス、推薦文 、2018 年 11 月

③Yo Nonaka, (Book Review): Sovereign Women in a Muslim Kingdom: The Sultanahs of Aceh, 1641–1699. By Sher Banu A.L. Khan, International Journal of Asian Studies, Vol. 15, Issue 2: 257-259, 2018.

④高媛「映画」、日本植民地研究会編 『日本植民地研究の論点』岩波書店、2018 年

⑤後藤絵美 「ライラ・アハメド『イスラームにおける女性とジェンダー』 第 8 章ヴェールに関する言説カースィム・アミーンに関するコメント」「「砂漠の探究者」を探して――女性たちと 100 年」研究会、2017 年 12 月

⑥山口みどり「コメント「新しい女性」を育てる―19 世紀イギリスの女性雑誌・少女雑誌」「「砂漠の探究者」を探して――女性たちと 100 年」研究会、2017 年 7 月

⑦シンポジウム：上述のように、2017 年度に海外研究協力者を招聘してシンポジウム「近代化と家族・女性(Symposium on Women, Family and Modernity)」の一環として「セミナー：近代化と新しい女性（Modernity and New Women）1～３」を主催した。

セミナー1 (International Seminar): "'Shopgirls' in Britain and Japan", 8 April, Tokyo University; Guest Speaker: Professor Pamela Cox (Essex University), "'Shopgirls', Modernity and 'New Women' in Britain and Beyond"; Opening Address: Yamaguchi; Comment: Aoki, "Shopgirls as Moderngirls in Japan".

セミナー２:「戦後日本と「新しい女性」」5月20日、東京大学、招待講演: 中野嘉子氏（香港大学）;趣旨説明：山口；コメント：高「戦後日本と「新しい女性」へのコメント」

セミナー3 (International Seminar) : "Burmese 'New Women' in Visual Culture and Political Debate, 1885 to 1955", 22 October, Tokyo University; Guest Speaker: Dr. Lucy Delap (Cambridge University); Opening Address: Yamaguchi; Comment: Nonaka, "Depiction of Local Women by Europeans in Dutch East Indies in the Late-colonial Era"

⑦ホームページ　「新しい女性とアジアの近代」https://newwomen2016.amebaownd.com/

６．研究組織

(1)研究分担者

後藤 絵美（GOTO Emi)、東京大学・日本・アジアに関する教育研究ネットワーク・特任准教授 研究者番号：10633050

高 媛（KO En)、駒澤大学・グローバル・メディア・スタディーズ学部・准教授 研究者番号：20453566

野中 葉　（NONAKA Yo)、慶應義塾大学・総合政策学部（藤沢）・講師　研究者番号：70648691

青木 淳子　(AOKI Junko)、大東文化大学・外国語学部・特任准教授 研究者番号：50761433

李 美淑　(LEE Misook)、立教大学・グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター・助教 研究者番号：40767711

(2)研究協力者

宇野　陽子（UNO Yoko)、津田塾大学・付置研究所 研究者番号：60459310